

昨年度は年間入込客数が四万人を超えて、今年の夏も順調に観光客が増えている。沖縄振興策、サミットなど、沖縄の社会や経済を大きく変えるチャンスに恵まれ、基幹産業としての観光も新しい世紀に向けて構造的な変革を迫られている。一人込客重視の政策から内容を重視する政策へ



名桜大学観光産業学科

沖縄の観光に 対しての提言

を代表する都市には、歐米企業の駐在員も多いことから、これらの人々に対し、沖縄のリゾートをアピールしていくことも有効である。欧米の観光客を欧米から呼ぶのではなく、近隣諸国から呼ぶことを考える戦略もあつてよ。国際的な健康需要に応じたリゾートでは、イルカを用いた療養施設の整備があげられる。

カニアートの開催は、沖縄の国際的知名度を大きく高めることが期待される。観光的・サニアートの開催よりもその後の国際観光政策をどのように立案するかが重要で、短い時間の中でも間髪を入れない施策を実施していく能力が求められている。沖縄の国際観光戦略は、その対象を近隣諸国に限ってきた傾向があるが、アジアの周遊ルートのひとつと考えれば、香港やタイペイ・ソウルなどに来る欧米の観光客に対して、オプショナルルートとして沖縄を位置づけることも可能である。またこれらアジア・

価値観の中では遊びのために長期間休みを取ることがきわめて難しく、近年の特色として高齢社会を反映して定年後の世代による観光が増加する傾向を見せていることと、自身のリフレッシュを目的とする旅行が増えていることがあげられる。受け入れ側の観光地・リゾートでは、高齢社会や健康需要に対応した施設と活動メニューハウスで考える時代になつてゐる。

とされ、海洋健康科学財団が沖縄で展開している方法は国際的な評価も高い。難病に苦しむ世界中の子供たちに夢を与えることのよくなへうハウゼサニアトを製機として広く世界に紹介し、ポストサニアトの健康需要に対応した沖縄観光の中核としての役割が望まれる。クルージングへの対応も国際観光戦略として有効である。クルージングは寄港地の魅力によって発展させることができ、本島の都市的魔力に加えて離島地域の素朴な自然や社会も、アジアの大きな魔力である。たとえば西表島の自然に注目し、「」に結ったアドベンチャーツアーのような活動メニューやを開発していくことも考えられる。スタークルーズなど国際的な航路上に位置することを活用することと同時に、県内のクルーズエリーを活用したメニューフクリーにも着手すべきである。最後に、観光統計の用語としては「入域」ではなく、「」に統一してこくことが望ましい。

